

最 終 報 告 書

国際交流センター長殿

2025年 5月 26日

学部	国際教養	学科	国際観光
留学プログラム	交換・認定留学	派遣年度	2024 年
派遣国・地域	フランス共和国	留学先	ISMAC

留 学 期 間	2024年 8月 26日 ~ 2025年 4月 30日
---------	-----------------------------

留学プログラムが終了しましたので、以下のとおり報告いたします。

記

受講科目	受講期間	週当たり授業時間	取得単位数
FLE Français Langue Étrangère Cours Général①	2024. 9. 02-2024. 12. 20	10時間(2時間半×4)	-
FLE Français Langue Étrangère Cours Général②	2025. 1. 06-2025. 4. 25	10時間(2時間半×4)	-
FLE Français Langue Étrangères Atelier①	2024. 9. 02-2024. 12. 20	5時間(1時間×5)	-
FLE Français Langue Étrangères Atelier②	2025. 1. 06-2025. 4. 25	5時間(1時間×5)	-
Marketing Digital	2024. 9. 30-2025. 1. 27	2時間	8単位
Conférences A (Conference A) Entrepreneurship Management A	2024. 9. 30-2025. 1. 27	2時間	6単位
Innov & Business Creation	2024. 10. 1-2025. 1. 28	2時間	8単位
Branding	2024. 10. 1-2025. 1. 27	2時間	8単位
Notion	10/21, 10/28, 12/16	4. 15時間	-

今回の留学によって得られたと感じる「学び」や「成長」、そして、「成果」について書いてください。

今回の長期交換留学を通して、私は多くのことを学び、また得ることができました。

・語学力

現地では、英語とフランス語を向上させることができました。特にフランス語に関しては、留学前はまったく喋れない状態でしたが、現地でネイティブから学ぶことで、格段に向上しました。実際に現地で受験したTCF試験(フランス語版TOEIC)では下から2番目のA2レベルを取得することができました。

また英語力も現地で英語話者と交流することで洗練されていきました。

・ビジネススキル

派遣先の学校ではフランス語に加えてマーケティング科目も受講していました。5つのマーケティング科目では、起業の方法から、WEBマーケティングのやり方、LinkedInの使い方まで幅広く学ぶことができました。特に「Innov & Business Creation」と「Branding」の講義ではチームで新しいブランドを作成する課題が出されました。これら2つの講義はOIUで受講したBusiness Designに似ていましたが、より深く実践的な内容でした。例えば、チーム課題ではまず初めに市場調査を行い、潜在顧客のニーズを調べました。その後も潜在顧客層がこのサービスを実際に必要としているかを確認するためにアンケートなどを行いました。2つの講義に共通している特徴としては、根拠と論理性が求められる点です。サービス提案時は、「アンケート回答者の内〇〇%が良い反応を示した。だからこのサービスは売り出す価値がある。」といったように客観的なデータを示さなければ評価されませんでした。このような点はOIUでは経験しなかったので印象的でした。

・観光に関する知識

私は観光学科に在籍しており、OIUでも観光学に関連する講義を複数科目受講していました。そのため今回の留学では、世界最大の観光大国であるフランスの観光資源に直接触れるということも目的の1つでした。

現地の学校は基本的に昼以降は講義がなかったため、放課後はよく美術館や観光地を訪れていました。フランスでは学生への支援が充実しており、多くの観光地や公共施設では、学生は無料もしくは少額の料金で入ることができます。ですので、私もルーブル美術館のような有名な観光地はもとより、ガイドブックには載っていないようなマイナーな観光施設まで多くの場所に行くことができました。

・精神的な成長

留学を通して、自分に自信を持てるようになるなど、精神的な成長もありました。具体的には行動力と課題解決力、そして異文化理解力を養うことができました。

現地で出会った人の多くは自分から能動的に動く人が多く、自分自身もそのように能動的に行動をしていかないと何にも挑戦できない環境でした。そのため、マーケティングコースでのチーム課題において自分からリーダーに立候補して課題を進めていきました。最終的にはすべての科目で単位を取得することができ、また1つの科目ではクラス内最優秀賞をいただくこともできました。

また、様々な背景を持つ人々と接する中で物事を把握し適切にまとめる力も養うことができました。特に私が住んでいたシェアハウスでは共同生活のため様々なトラブルも発生しました。例えば、生活習慣の違いなどです。私は朝早くから講義があった為、6時ごろに共用のキッチンでいつも朝食を作っていました。ですが、ハウスメイトの多くは朝7時ごろに起床しており、キッチンに近い部屋に住んでいた人から騒音に関する文句を言われました。その際は自分が早朝に家を出るため、朝の6時から朝食を作る必要があることを伝えて理解してもらい、その上でできる限り音を立てずに料理することを約束しました。それ以降は特に文句を言われることもなく、仲の良い関係を続けることができました。

他にも、現地の学校や家では、フランス人はもちろん、中国や韓国、インドネシアといったアジア圏からの留学生や、ガーナ人やインド人とも共に過ごしていました。その中で互いの価値観を尊重しあうことで自分の視野を広げることもできました。

今後の目標について書いてください。

・語学力

今後も継続して学修を続けることで、フランスで伸ばした語学力をさらに伸ばしていきたいと考えています。具体的にはフランス語はTCF B1レベル(日常生活における大体の事柄に対応できる)とTOEIC850点を卒業後までに取得します。

・ビジネススキル

自分は現地でも就職活動を行っていたため、帰国後にすぐ希望業界で内定をいただくことができました。入社後に行う業務とISMACで学んだマーケティングの知識はあまり関連していないため、入社後すぐは現地で培ったビジネススキルは使えないと思います。ですが、自分は将来的にマーケティングなどを行う部署で働きたいと考えているので、その際に学んだ知識を存分に活かせるように学修は続けていきます。

・行動力/課題解決力/異文化理解力

自分は入社後、チームリーダーとして数十名の部下の人材マネジメントなどを行う業務に就きます。そのため、これらの力は入社後に必ず必要になると考えています。入社後に活躍できる人材になるために在学中は、これらの力をより高められるように努めていきます。

履修・教務、学修面について

(例)以下のことを参考に記入してください。

・どのように学修に取り組んだか。どのような学修が効果的だったか。

・特に有益だった受講科目について。

現地ではマーケティング科目を5科目(特別講義1科目を含む)とフランス語科目を2科目受講していました。どの講義も難しく自習は欠かせませんでした。

・マーケティング科目

マーケティング科目ではマーケティングの知識を学ぶ実践型の講義を3科目と、回ごとにテーマが変わり様々なことを学ぶ科目(OIUの教養総合講義に近い)、そしてNotionという文書作成ソフトウェアの使用方法を学ぶ短期集中科目の合計5科目を受講しました。

特に実践型の3科目については、内容も専門的だったため講義内ですべてを理解することは不可能でした。そのため、放課後は毎日のように国立図書館に通って自習をしていました。具体的には、先生から共有された資料スライドやTeamsの録画データ(ISMACの講義では、遠方に住んでいる学生向けにTeamsでオンライン講義も同時に行っていました)を見直して、内容をOneNoteにテキストのようにまとめていました。このやり方はOIUにいたころも行っていたのですが、その時とは違い、フランスでは内容を英語で書くようにして、専門用語のみ英語名の横に日本語の翻訳を入れるようにしていました。

また宿題は基本的にありませんでした。ですが、実践型の科目では最終課題の詳細が最初から共有されていたため、各講義終わりに今週やっておいたほうが良いこと(企業理念の策定や市場調査など)を指示されました。これらの課題はその週にやらなくても減点等はありませんが、最終課題で必要な情報になるので、後々困ることになります。

テストは実践型の3科目のみでした。それぞれ中間試験と期末試験があり、内容も様々でした。例えば選択式や記述式のテスト、プレゼンテーション、レポート課題などです。プレゼンテーションはチーム課題のため、事前にスライドや企画書を作成し、チームで集まって練習をしたりしました。またテストの前には自分でまとめた資料をよく読みこんでから本番に臨んでいました。特に印象に残った試験はレポート形式です。対面型の試験で、PCを使用して2時間でレポートを作成するという形式でしたが、問題が「講義内で習ったビジネス知識のうち1つから2つ選び、それらの知識について何故そう思うのかと今からの人生でどう活かせるのかについて、自分の意見と今後のキャリアプランを交えて400単語以上でまとめろ」という、とてもアバウトなものでした。自分はOIUで学んでいた英語エッセイの書き方を参考に書き上げたのですが、友人は箇条書き形式で記載しており、学生によって別々のやり方で課題に取り組んでいたのが問題内容とともに印象的でした。

・フランス語科目 フランス語コースでは2科目受講していましたが、講義が続けて行われるのと、先生が一緒のため内容は同じでした。マーケティング科目とは違い、基本的に資料やワークシートは紙媒体で配られたため、資料をまとめるのに苦労しました。 先生は書くことを大事にしていたため、講義内ではよくプリントにセンテンスや単語を書くように指示されました。またフランス語は発音にも特徴があるため、プリント上のダイアログや問題文も学生が実際に読み上げて発音の指導を受けることもよくありました。 私は講義中にわからない単語があった場合は、先生に質問をするか、スマホのアプリで調べていました。私が使用していたアプリはiPhoneの「辞書by物書堂」というもので、アプリ内でフランス語の辞書(約5千円)を購入して使用していました。ほかの日本人学生もこのアプリを使っており、おすすめのアプリです。 試験は毎月の月間試験と期末試験がありました。月間試験ではその月に習ったことについて、期末試験ではその学期に学んだことについて問題が出されました。どちらの試験も出題構成は同じで、筆記は単語と文法、リーディング、リスニング、ライティングの問題が出され、また面接試験もありました。単語と文法の問題は先生が独自に作成した問題でしたが、それ以外の問題はDELF(フランス語版英検のようなもの)から出題していました。ライティングでは、例えば「60単語以上で友人宛のパーティーの招待状を書け」といった問題が出されました。また基本的にライティングのテーマは分野の違う2問が出題されるため、過去形や未来形など自分が得意な方を選ぶことができました。面接は準備時間5分と本番10分の計15分で終わりました。問題は先に伝えられて準備時間でプリントに話すことを書き出していました。内容は自己紹介や、店員や客になりきってのロールプレイなどでした。
・自習 マーケティング科目とフランス語科目共に、内容が難しかったため多くの時間を自習に費やしていました。家だと集中しにくいので、学校終わりはよく国立図書館新館にいました。旧館はルーブル美術館の横にあり学校からは離れていたのですが、新館の方は学校から20分ほどでアクセスが良く、また机も多かったため勉強する場所が見つからないといったことはありませんでした。国立図書館は1回の入場で5ユーロかかるのですが、学生向けの年間パスは15ユーロで購入できるため、すぐに購入しました。平日は講義が終わると大体13時ごろには19時ごろまで図書館で自習を続けていました。

生活面について

<u>(例)以下のことを参考に記入してください。</u> ・授業以外の時間は、どのように過ごしましたか。(休日・余暇の過ごし方)
ISMACでの講義が忙しいときは基本的に図書館にこもっていましたが、スケジュールが落ち着いているときには、よくいろいろな観光地を訪れました。 フランスは学生への優遇政策が多く、例えばルーブル美術館やヴェルサイユ宮殿などは無料で入ることができます。他にもコンサートなどは開催回数も多く、また学生は安い料金でチケットを購入できるため、アクティビティには事欠きませんでした。加えて、学生はパリ近辺の乗り放題パスを6万円程度で購入できるため、お金をかけずにいろいろな場所に行くことができました。 またシェアハウスでは夜にハウスメイトと映画を見たりしました。共用のリビングには大きなソファとテレビがあり、Netflixも見放題だったため多くの作品を見ることができました。最初のころは誰かがムービーナイトを主催するのに参加していただけでしたが、途中からは自分からグループチャットに参加を呼び掛けていました。例えばフランスのNetflixではジブリ作品が見れたため、他のハウスメイトと一緒に見ながら映像に出てきた日本独自の文化について説明をしたりしていました。他にもハロウィンやクリスマスの時期はホームパーティーを楽しみました。日本では冬の料理といえば鍋ですが、フランスでは冬の定番はラクレット(溶かしたチーズをジャガイモや生ハムにかけて食べる料理)で、シェアハウスにもラクレット機があり、皆でラクレットパーティーをしたこともあります。冬休みなどはハウスメイトの多くが実家に帰省していたため、フランス語科目の友人や先生を招待してホームパーティーを主催しました。フランスでは参加者が料理やお菓子を持ち寄る形式のパーティーが主流で、例えば先生はおすすめのチーズを持ってきてくれました。自分もお好み焼きを振る舞ったところ、皆は喜んでくれました。これ以外にも空いた時間は積極的に他の人と交流を深めるようにしていました。

費用概算					
この留学にかかった留学費用総額		約	2,497,080	円	
内訳	渡航・帰国費用（航空券）	約	190,000	円	
	海外旅行傷害保険	約	136,000	円	
	査証（ビザ）取得費用	約	62,000	円	
	日用品	約	5,000 円/月×	8ヶ月	
	食費	約	72,000 円/月×	8ヶ月	
	寮費	約	165,000 円/月×	8ヶ月	
	水・光熱費	約	0 円/月×	ヶ月	
	現地携帯電話	約	3,200 円/月×	8ヶ月	
	インターネット	約	6,480 円/月×	1ヶ月	
	利用方法	学内で利用・寮で利用・自分の携帯で利用 など			
		（複数回答可。○をつけること。）			
	その他（用途：定期券）	約	61,000 円/年×	1回	
	その他（用途：娯楽費）	約	10,000 円/月×	8ヶ月	
	（医療費、教科書代などあれば）				

滞在中の費用について
※1€=160円で算出しています。 ・奨学金について 大阪国際大学同窓会奨学金として560,000円をいただきました。 ・航空券代金について 航空券代金には、現地空港税やINTへの手数料等が含まれています。 ・保険について 大学指定の保険を9か月分契約しています。 ・住居について 留学中に滞在したシェアハウスの家賃には、水道代・光熱費・インターネット費用が含まれています。また、洗剤やトイレトーパー、食器類などもすべて備え付けられており、基本的な生活費を抑えることができました。なお、家賃にはデポジット(1か月分の家賃)と保証会社の費用も含まれています。 ・ビザ取得費用について ビザ申請にはオンライン申請に加え、在日フランス大使館(東京)での書類提出が必要でした。そのため、ビザ取得費用には、キャンパスフランス(学生ビザ受付機関)および査証審査機関への登録費用、東京への交通費、現地での長期学生ビザ有効化費用が含まれています。 ・現地携帯電話/インターネット代について 携帯電話とインターネットについては、現地のキャリア会社でSIMを購入しました(現地携帯電話代として記載)。また、VPNソフトを契約しています(インターネット代として記載)。 ・支払い方法について 留学中の支払い方法は、前半はWISE（オンラインバンキングサービス）、後半は現地で開設した銀行口座のカードを使用しました。 出国前に周囲からすすめられたWISEに登録し、カードを発行しました。基本的な支払いや家賃の引き落としなどはWISEで十分対応可能です。ただし、フランスの国民保険や家賃補助の手続きには、フランス国内の銀行口座が必要なため、現地で口座を開設しました。 パリ市内の多くの店舗ではクレジットカードが使用できますが、「〇〇€以上からのみカード払い可能」といったルールを設けている店も多くあります。そのため、パン1つなど少額の買い物をする際に備えて、ある程度の現金を持ち歩くことをおすすめします。 銀行口座の開設手続きは複雑で、全て完了したのは12月になってからでした。その後はATMで現金を引き出せるようになり、支払いに関する心配はなくなりました。

出発前の準備と現地到着後の流れ（どの様に準備をしましたか。）

・ビザに関するやり取り

留学先であるISMACは、フランス政府が指定する正規教育機関には含まれていない、いわゆるビジネススクールであったため、学生ビザの登録に時間がかかりました。そのため、OIUの国際交流センター、キャンパスフランス、ISMACと何度も連絡を取り合い、最終的に無事学生ビザを取得することができました。

インターネット上にあるビザ取得に関する資料の多くはパンデミック前のものであり、最新の情報を得るためには直接審査機関に問い合わせることが多かったです。

具体的なビザ取得の流れとしては、まず学生ビザ審査機関であるキャンパスフランスに申請・登録(オンライン)し、その後フランス大使館でビザを申請・発行(オンライン+対面)します。フランス到着後には、ビザの有効化手続きを行う(オンライン)という流れになります。なお、パンデミック以降、ビザ申請は東京にあるフランス大使館でのみ可能となりました。

また、キャンパスフランスから提供されたビザ申請方法の書類には、「夏休み期間中は学生の予約不要」と記載されていましたが、実際には間違いであり、学生であっても予約が必要でした。私は8月15日に大使館で申請し、2日後には大阪の自宅へビザが郵送されました。

・ISMACとのやり取り

ISMACで受講しているマーケティングコースとフランス語コースには、それぞれ異なる担当者(英語話者と日本語話者)がいるため、約半年間にわたり各担当者とやり取りを行いました。

出国前にISMACから提供された講義資料には「マーケティングコース」としか記載されておらず、日本にいる間にどの講義を履修すべきか判断するのに苦労しました。結果的に、本学で受講できた講義は経済に関連する内容が多かったのに対し、ISMACでの講義は起業やプロモーションといった実践的な内容でした。本学で履修した中で、最も関連性が高かったのは「Business Design」です。

・家の契約

キャンパスフランスの登録が完了してからの約2か月間で家の契約を行いました。私がフランスに到着した時期はちょうどオリンピック終了直後だったため、パリ市内の家賃は月に20万～30万円ほどと高額でした。そのため、ISMACからOIUへ交換留学で来ていた友人に、パリ郊外にある現在のシェアハウスを紹介してもらいました。

契約には、キャンパスフランスの登録証明書や、自分と家族の収入証明書などの提出が必要でした。また、フランス国外に保証人がいる場合は、シェアハウスの管理会社と提携している保証会社との契約も必要になります。契約手続きはすべてオンラインで完了しましたが、Airbnbに比べると複雑でした。

・入国後

フランスへの到着は夜遅くだったため、その日は空港近くのホテルに一泊し、翌日にシェアハウスへ向かいました。空港からシェアハウスまでは、ISMACが提携しているドライバーに送迎してもらいました。費用はチップ込みで現金60€でした。

シェアハウスでは、現地スタッフと合流して鍵の受け取りや設備の確認を行う予定でしたが、予定時刻を過ぎてもスタッフが現れませんでした。最終的には、ハウスメイトに家の中へ入れてもらい、その約1時間後にスタッフが到着し、部屋の確認を行いました。

入国日から開講日まで1週間の余裕があったため、その間にSIMカードの契約を行いました。契約は、フランスの大手キャリアであるFreeの店舗で行いました。契約手続きはモニターに情報を入力するだけで完了し、約15分でSIMカードを受け取ることができました。

また、その後はISMACのキャンパスまでの道のりを確認し、日本にいる間に連絡を取っていた日本人職員にご挨拶とお土産を渡しました。

留学中、大変だと感じたことは何ですか。その時にどう対応しましたか。（どう対応すればいいと思いますか）

留学を通して特に困ったことは現地の人々の適当な対応や仕事についてです。

例えば、マーケティングコースの職員は講義の時間や教室が変更になっても一切連絡をしてくれませんでした。実際に自分は講義開始の5分前に誰も教室に来なかったので職員に聞いたところ、今日の講義はキャンセルになったと言われました。これ以降、自分は登校した際に必ず職員に今日のスケジュールを確認するようにして、またクラスメイトとも連絡を密にとるようにして何か変更があった際にはすぐに把握できるようにしていました。

他にも役所などを含めてどの組織でも仕事は遅かったです。基本的に複数回催促をしないと返事が返ってこず、また内容が的外れなこともあり、とてもストレスでした。そのため、何か書類などを発行してほしいときは数か月前から申請をして、多少遅れても間に合うようにしていました。

基本的に現地の人とは日本人と違って親切ではないので、自分から動いていくことが大事でした。特に今後ヨーロッパに行く人は、待っているだけでは何も状況は動かないので、自分から行動を起こすことが大事だということを意識していたほうが良いと思います。

自由記入欄（次年度以降の後輩へ向けてのメッセージなど）

留学にはお金が多くかかります。今までと違う生活はとてもしんどいですし、現地で就活をする場合はとても忙しくなります。正直デメリットも多いですが、それらを補って余りあるチャンスや機会も留学にはあると思っています。大事なのは「留学に行くこと」ではなく、「留学先で経験したこと」です。ぜひ留学先で様々なことに挑戦して自分だけの留学経験を積んでみてください。応援しています！